

農林 水産部

「平成11年度農地流動化推進大会」の開催

去る7月27日、沖縄県女性総合センターにおいて、沖縄県農業会議及び沖縄県構造政策推進会議の主催により県内各市町村の農業委員会長、農地流動化専門員・推進員及び経営基盤強化担当職員を中心に約400名が一堂に参集して、「平成11年度農地流動化推進大会」が開催されました。

この大会は、農業者の高齢化や農業就業者が減少する中で、市町村基本構想に掲げる経営感覚に優れた効率的かつ安定的な農業経営の確立を図るために活動の一環として、県をはじめ関係機関・団体が一体となって取り組んでいる「農地流動化1・1・1の1000ha運動」並びに「いきいき農業、農地と経営を強くする運動」を一層強化し、認定農業者等への農地の利用集積を促進することを目的に毎年開催されています。



大会では、優良農業委員会として、農地銀行活動に積極的に取り組み、平成10年度における農地流動化の実績が特に優れていた名護市及び竹富町農業委員会が沖縄県知事賞を受賞し、表彰状が授与されました。

また、沖縄県、県農業会議の各担当官から、関係機関の努力の下鋭意進められている農地流動化推進運動の成果と推進方針等について説明が行われたのに引き続き、地域における活動事例の報告がありました。

その後、大会の参加者を交えた意見交換が行われ、今後における農地流動化運動の推進に向けて、相互の連携強化が図られました。

財務部

財政金融講演会開催

去る8月19日沖縄総合事務局財務部主催による財政金融講演会が那覇市のメルパルク沖縄において行われ、産業界、金融・保険業界、行政機関、婦人団体など約110余人が出席した。講師には大蔵省主計局主計官の村尾信尚氏を迎え、「我が国財政の現状と課題」について講演を行った。



村尾氏は講演のなかで、公債残高が平成11年度末で327兆円と見込まれ公債依存度も37.9%となるなど厳しい我が国財政の現状を説明した。また、村尾氏は財政構造改革に触れ、「少子・高齢化が進む我が国において、未来を担う世代、社会のことを考えると、さらに事態は深刻で、財政構造改革は引き続き重要課題であり、経済が回復軌道に乗った段階で中長期的視点で国民一人一人のレベルで論議し、アクションを起こす必要がある。」と述べた。

聴講した方々からは、「我が国の財政事情の厳しさが理解できた。」、「諸外国との比較説明が参考になった。」等の意見が寄せられた。

局の動き

総務部

沖縄総合事務局の業務説明会を開催

総務部では、8月6日に当局3階大会議室において、国家公務員採用 種試験の第1次合格者を対象とした沖縄総合事務局の業務説明会を開催した。

業務説明会は、1次合格者に対して沖縄総合事務局が実施している各種施策や事業について積極的にピアーチを行ない沖縄総合事務局が果たす役割について理解を深めてもらい、沖縄総合事務局を担う多様でやる気のある人材を確保することを目的に毎年実施しているものである。

業務説明会では、沖縄総合事務局が2001年1月からの省庁再編に伴い内閣府の総合出先機関として沖縄の振興開発や沖縄の諸問題の解決のため、更に重要な役割を果たしていくことや、将来の沖縄の発展のために総合事務局が行っている施策や事業、今後予定されている施策事業等についての説明を行い、総合事務局が若い皆さんにとって夢を持って、やりがいのある仕事ができる職場であることを紹介した。

その後、引き続き質疑応答が行われ、参加者からは、各部の業務内容に関することや沖縄振興開発についての活発な質疑が行われた。



開発建設部

「くるま世・うまん人・美ら街じゅくい」の道路シンポ開催

去った7月19日(月)に、慢性的な那覇都市圏の交通渋滞を考える道路シンポウム(主催・那覇市、沖縄県、沖縄総合事務局)「くるま世・うまん人・美ら街じゅくい」を、那覇市内のホテル「とまりん」にて開催しました。学識経験者の講演や行政、民間のパネルディスカッションを通して、那覇都市圏の慢性的な交通渋滞解消を見いだすというのが目的です。会場には市民ら約230人の参加がありました。

「交通渋滞—このガソナ交通症候群」と題して講演をした上間清氏(琉大工学部教授)から「交通問題への市民、県民の関心の高揚や産官学の共働」が今後の課題との提言がありました。

パネルディスカッションは、野崎四郎氏(沖国大商経学部教授)をコーディネーターに、遠藤和重氏(沖縄総合事務局開発建設部道路建設課長)、小渡ハル子氏(沖縄県婦人連合会副会長)、高嶺晃氏(那覇市都市計画部長)、中村政春氏(沖縄県警察本部交通部長)、備瀬ヒロ子氏(都市科学政策研究所所長)、山川宗邦氏(日本青年会議所沖縄地区協議会副会長)の6氏がパネリストとして参加しました。



運輸部

「海の旬間」行事を挙行

運輸部では、今年も7月20日から7月31日までの間「海へ帰ろう」をテーマに「海の旬間」を実施しました。この「海の旬間」は、かけがえのない「海」をいつまでも美しく、安全なものに保つとともに、そのより積極的な利用と開発を進め、海について広く关心と理解を深めることを目的としています。今年の「海の旬間」では次のとおりのほか、多彩な行事を実施しました。



7月22日「海の日」海事関係功労者表彰式典

7月23日 一日船長任命式(ミス那覇)
親子ふれあいクルージング(クルーズフェリー飛龍21)
7月20日~26日 海の図画コンクール
展示会及び模型展示会
訪船指導等

通商産業部

違法採掘防止対策の強化

沖縄県における鉱山は、石灰石鉱山が大部分を占め、沖縄本島を始め、宮古、石垣といった主な離島から波照間、南北大東、多良間島といった小さな島々にまで広く点在しています。

理由としては、採掘する石灰石が地中近くにあり、しかも軟らかいといった特質を備え、パワーショベルやブルートーバーなどの簡便な重機類で容易に採掘できることにあります。このため土地整備等と称し、鉱山の認可を受けずに採掘する、いわゆる違法採掘を行っているケースが一部で見受けられます。

この問題に対処するため、当局においては、これまでにも定期的に地域への巡回指導監督を実施し、また公共工事発注機関に対しても正規鉱山からの石灰石購入等をお願いしてきたところですが、未だ十分とはいえない状況にあります。

このような観点から、石灰石の違法採掘防止対策をさらに強化するため、これまで以上に関係行政機関との十分な連絡調整を行いつつ、地元市町村及び警察署との合同の巡回指導監督を実施していくこととしております。



通商産業部ホームページ

<http://www.okinawa-ric.or.jp/virtualtown/movee>